保育園自己評価表

2025年度

園名　まあむベイビィズ中央林間

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
【目標】 ・相手を思いやることができる優しい心を持った子 ・自分で決めて自分でおこなえる子 【達成度】 ・異年齢での混合保育を取り入れたことにより、日々の生活の中で年上児にあこがれを持ち、身の回りのことや遊びを真似して行うなど、自発的に行動する児が増えていった。また、年上児は遊びの中で遊びに誘ったり、０歳児に「あかちゃん」と言って可愛がり、玩具を持ってきてあげるなど「思いやり」の心も育まれた。 ・保育室内子どもが自ら玩具を取り出せるように環境を整えることにより、一人ひとりが好きな玩具で遊んだり、好きな遊びを通して同じ遊びに興味のある子同士が一緒に遊んだりする中で、「かして」「いいよ」など保育者が言葉のやりとりを仲介することで他児の気持ちに気づき、寄り添う優しい心も育まれていった。 ・物の設置場所に写真を貼り、見えるかすることで自ら取り出して遊んだ後の片付けも意欲的に行動することが出来ていた。	・全職員で全園児の把握をしていく事で、気づいたこと子どもや保護者の様子など職員同士相談しながら日々の保育について話し合う機会が増え、発達状況を把握し、対応することができた。そのなかで、子どもが自分で使いたい遊具を選び、じっくりと遊び込む経験からの学びを大切にし、子どもの様子を伝え合いながら定期的に環境の見直しを図っていった。子どもたちが落ち着いて伸び伸びと過ごし、それぞれが好きな遊びを楽しみながら日々成長していく様子を園全体で感じることができた。 ・連絡事項用にホワイトボードを活用することで、早番遅番への連絡ミスを防げるようにした。また、ボードに記載する際は、口頭でもしっかりと伝え合い共有をした。 ・園外保育中もIPS無線機を使用することで、情報共有を行うことができ、近隣火災の時には状況を共有し、帰園ルートを変更したり、職員を増員したりと状況に応じて避難の対応をとることができた。 ・職員同士が協力し合い、仕事の分担を柔軟に変更するなど助け合うことができた。 ・「チーム保育」を大切にした。クラスを超えた園全体での連携意識を共有しながら保育を行った。	・ハロウィンでは、なか乃中華そばさんへ訪問し「トリック・オア・トリート」「おかしちょうだい」とお菓子をもらいに行き、交流を図ることができた。 ・今年度初めて近隣の店舗でクリスマスの装飾をさせていただく機会があった。初めての場所だったが、行儀よく話を聞くことができ楽しんで飾り付けを行なうことができ近隣の方との良い交流となった。 ・ビルのオーナーさんに勤労感謝の日にちなんでプレゼントを製作し、感謝の気持ちを伝えることができた。また、オーナーさんが育てていたブルーベリーで色水あそびをしたり、でこぽんの収穫をさせてもらい、感謝の気持ちを持ちながら美味しく頂いた。 ・戸外活動の際、保育者が近隣の方や他園の方にご挨拶をすることで、子どもたちも手を振ったり「バイバイ」と言ったりする姿が見られた。また、卒園児の保護者に声をかけられてお話をしたり、公園に遊びに来ていた親子にご挨拶することで、お話をする機会があった。

この評価のつけ方：

職員会議を開き各職員への聞き取り